

令和元年11月29日

北名古屋市議会議長  
永津正和様

会派名 公明党

代表 猶木 義郎



視察・研修報告書

政務活動費により視察・研修のため出張いたしましたので、下記のとおり報告  
します。

記

参加議員名	【北名古屋市】公明党・市政クラブ、【豊山町】飛翔会 (別紙のとおり)	
日程	令和元年11月11日(月)～11月12日(火)	
月日	視察・研修先	視察・研修概要
11・11	石川県金沢市	大規模災害時における対応について(陸上自衛隊金沢駐屯地)
11・12	富山県富山市	公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトな街づくりについて(富山市役所) 災害対策の拠点について(富山県広域消防防災センター)

経費合計	交通費	宿泊費	土産代	参加費	その他
92,230円	53,230円	39,000円	円	円	円

(裏)

調査の成果

〈 大規模災害時における対応について 〉

・金沢駐屯地視察 : 第 14 連隊長 梨木慎吾様から話を伺う。

徒歩機動訓練 ;

20 kg の荷物を背負い 3 日間かけて 100 km を歩いた。

担当県内の海岸線距離約 1100 km を今後 5 か年かけて行軍する予定。

担当県内を平常時に歩くことにより、地形や交通を体感する。そこに

ある生活を知り、どんな危険が潜んでいるか、いざという時は、どう

行動したらいいのかを想像力を掻き立てシュミレーションをする。

自ら考え方策を立て行動できるようになるための訓練である。

災害派遣 ; 西日本豪雨

平成 30 年 7 月 07 日 ~ 19 日 岡山県へ 1 コ中隊基幹 (約 140 名)

人命救助活動、行方不明者捜索などを実施した。

平成 30 年 7 月 22 日 ~ 29 日 広島県安芸郡へ

第 14 普通科連隊を基幹とした第 10 師団派遣隊 (約 320 人)

用水路の危険物の除去等を実施。

豚コレラ対処 平成 31 年 2 月 6 日 ~ 8 日 (恵那市・瑞浪市)

約 4300 頭の患畜の処分を支援した後、豚舎を清掃・消毒を行った。

南海トラフ地震対処計画（担当区域）

第1中隊（約120名）；小牧市、岩倉市、清須市、北名古屋市、あま市、大治町；要救助者合計数（当初見積数）4283名

無いことに越したことはない災害ですが、いざという時のために万全を尽くして下さるお姿にただただ感謝の思いで一杯です。

南海トラフ地震が心配されています。発災すると太平洋側にある多くの駐屯地も被災する恐れがあります。「日本海から私たちが駆け付けます！」と心強いお言葉を頂きました。

しかし、駐屯地の大半が太平洋側に偏っている現状を懸念していると伺いました。

「国難に備え、精強な第14連隊を育成して参りますので、ご支援をよろしくお願いします。」とのことでした。

第1中隊の担当区域は5市1町であるが、こうして駐屯地を訪問して下さり顔の見える関係を築くことができ、どこよりも先に北名古屋市に救援に行きたいと思いました。2019年12月初旬に名古屋市の駐屯地へ行く予定があるので、北名古屋市を訪問し歩いて街を走る訓練を実施したいとおっしゃってくださいました。

知

とても楽しみです。

金沢市の風物詩。駐屯地内の木々への雪吊りも自衛官の皆様が行われていました。

多くの皆様のお力添えで今回の充実した視察を行うことができ、自衛官の皆様のご苦勞や素晴らしい活動を知ることができました。

本当に感謝しております。

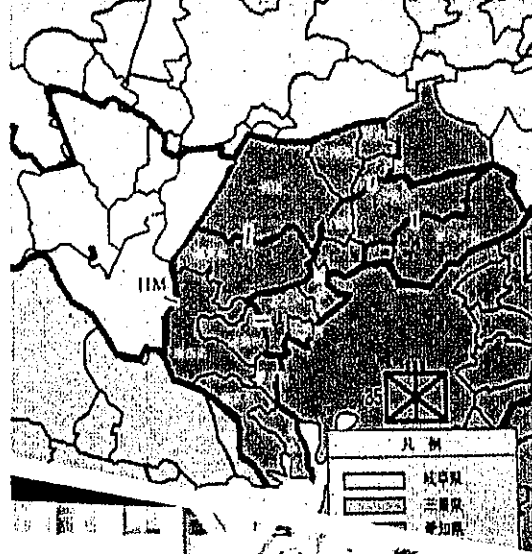
(資料等添付のこと)



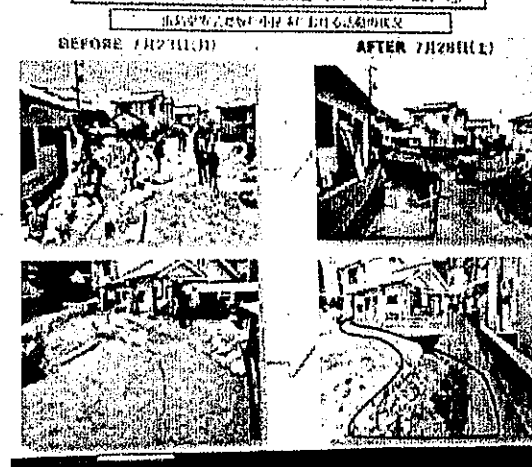
勝コレラ対策に伴う災害派遣(岐阜県関市)11.2.19



14連隊 南浦トラフ地区対策計画(担任区域)



西日本豪雨に伴う災害派遣(30.7.22~29) (4)



本日はご来隊頂き誠にありがとうございます  
北名古屋市及び豊山町の皆様と連携を区  
国難に備え、精強な14連隊を育成して参り  
ますので、ご支援よろしくお願いたします！

(裏)

調査の成果

〈 公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりに  
ついて 〉 富山市

富山市は2010年をピークに人口が減少に転じ、高齢化も進む典型的な中核市で、自動車保有率は全国2位という自動車依存の高い地域。

住民の移動もマイカー前提のため、宅地は敷地の広い戸建てを中心に郊外へと広がっている。

居住地域の広域化によって、ゴミ収集や除雪などの行政サービスのコスト増大、高齢化による介護や医療サービスの質の低下などの問題が表面化しはじめ、解決策として15年ほど前からコンパクトシティの取り組みを始めています。

富山市ではJR富山駅を中心とする市街地と、鉄道駅やバス停などを中心とする徒歩圏の拠点地域を「お団子」と呼び、「串」と呼ばれる公共交通でつなぐ計画です。

「串」を通すために、利用者の減少が顕著だったJR富山港線を富山ライトレール(愛称ポートルム)と呼ばれるLRT(次世代路面電車)へ再生しました。

バリアフリーの交通システムで使いやすいように運転間隔を短縮し、

高齢者の料金も抑えたことで、利用も増えている。

公共交通沿線居住推進地区の「お団子」エリア中心市街地地区への居住を推進するため、良質な住宅や宅地を供給する事業者や、住宅を新築・購入や貸借して居住する市民に対して助成を行っている。

平成17年7月～平成31年3月までのこのエリアでの支援実績は、1223件3079戸であった。

中心市街地の活性化には、商業施設(FERIO 総曲輪)と隣接した「グラウンドプラザ」を建設し、年間100回以上のイベントを開催。富山城址の南側には富山国際会議場も建設されている。

市街地へ行きやすくなったこともあり、民間の市街地再開発事業なども活発化しつつある。

富山市の計画通り、高齢者の移住や移動の利便性は上がり一定の成功は収めていると思うが、市街地でも従来のアーケードや商店街へお客は戻っているとは言いがたい様子を感じた。

男子は結婚前に家を構えることで一人前とみなされる。とか、持ち家率の高いイメージの富山市で頑張っているが、実際効果が表れるのは何世代後なのか？と心配になった。空き家対策も同時に進めなくてはいけないだろうと感じた。

住み慣れた家を先祖代々守ってきた土地を離れられるのだろうか？

米作りやチューリップ栽培、果物収穫など今までの産業はどう守っていくのだろうか？

市街地の人口増加が示すように、子育て世代に選ばれる街づくりを推進してきた効果が表れている。北陸新幹線開業に合わせて新幹線高架下へ市内電車を乗り入れし、在来線高架化に合わせて市内電車と富山ライトレールを接続する計画が進んでいる。とても楽しみである。乗り換えがスムーズになることは市民や観光客にとっても便利で有益であるだろう。持続可能な取り組みとして、富山市のコンパクトシティ戦略の成功を祈っています。

(資料等添付のこと)